

都会のカラスのルーティンを探る！

1. 研究の目的

カラスが東京でどのように日常生活を送っているのか、その行動パターンや習性を観察し、理解する。

2. 調べるきっかけ

カラスはいつでも同じ場所にいるわけではない。
カラスは、一体いつどこにいるか気になり、この調査を始めることにした。

3. カラスの特徴

- 群れで暮らしていることが多い。
- 黒色だと思われることが多いが、よくみると緑やピンクなどカラフルに見える。
- ほとんどのカラスは、「カーカー」や「ガーガー」と鳴く。
- 雑食のため、木の実や肉、昆虫などを食べる。
- カラスの一年
 - 3月～4月：巣作りをしている
 - 3月～5月：群れていることが多い
 - 3月～7月：繁殖期。結婚し、子育てする時期

4. 都会に住む野生動物たちのバランス

都会に住む野生動物たちのバランスは複雑だ。もしもカラスが完全に駆除されてしまうと、カラスが餌にしているネズミが多くなり、感染症をばいはいしたり、家や畑に被害が出たりしてしまう。

一方、カラスが増え過ぎてしまうと、人間が出す生ごみやネズミ、ゴキブリだけでは満足できず、畑が荒らされてしまったり、スズメなどの草食の小さい鳥たちが食べられてしまい、絶滅してしまうかもしれない。

都会の生態系はとてもギリギリのバランスで保たれており、どこか一種類のみを増やしたり、減らしたりすると、他の多くの種に影響が出てしまう。

5. 専門家に聞いてみた【日本野鳥の会の上田会長に質問】

僕は今、夏休みの自由研究で都会のカラスの生態を調べています。8月の1ヶ月間、朝と昼と晩に住宅街、商店街、林試の森でカラスが現れる頻度や 何を食べているか、何羽いるか調査しています。一般的にカラスは害獣、悪い、ズルいようなイメージをもたれていますが、カラスがいなくなるとゴキブリやネズミが街に溢れて、衛生環境が悪くなるんじゃないかと思っています。また、カラスはとても賢く、仲間思い鳥のような気がしています。先生は、都会のカラスについて、どのように思われますか。

【上田会長からのお返事】

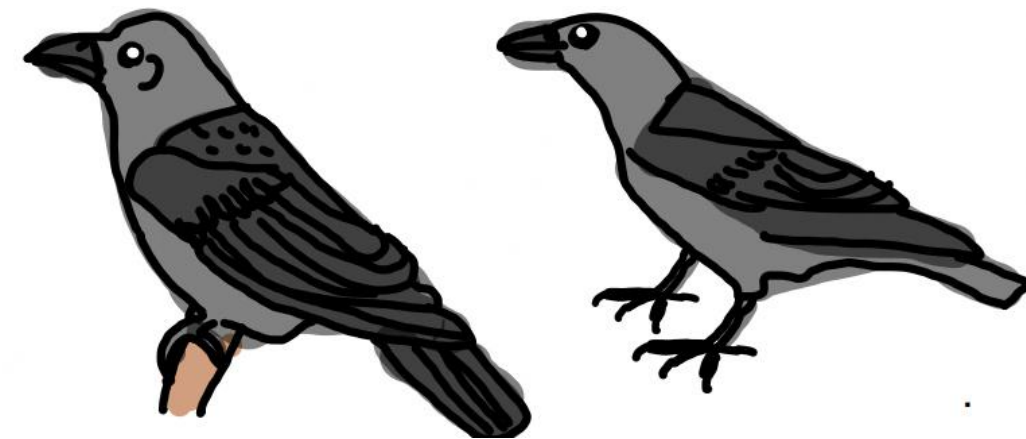
カラスは、もともとは森や農地などで暮らす鳥で、自然のなかで弱った動物、死体などを見つけて食べます。生きたネズミやゴキブリを食べることもありますが、街中では、多くのカラスは人が落とした食物や生ごみなどを食べて暮らしています。

東京都においてカラスが増加したのは、人の出す大量の生ごみが路上等に放置され、カラスがこれを食物として十分な栄養を得て、多くのひなを育てて数を増やした結果ではないかと考えています。そして、その増えすぎたカラスが人との間でさまざまな問題を起こしています。そのため、カラスが増えたのは人のふるまいの結果といえると思います。

カラスのせいばかりにするのではなく、まずは人間がゴミをきちんと管理することが、カラスが増えすぎるのを防ぎ、カラスとの良い関係を取り戻すことにつながるのではないのでしょうか。

日本野鳥の会
上田恵介（うえだ けいすけ） 会長

品川区立小山小学校4年 高橋徳至



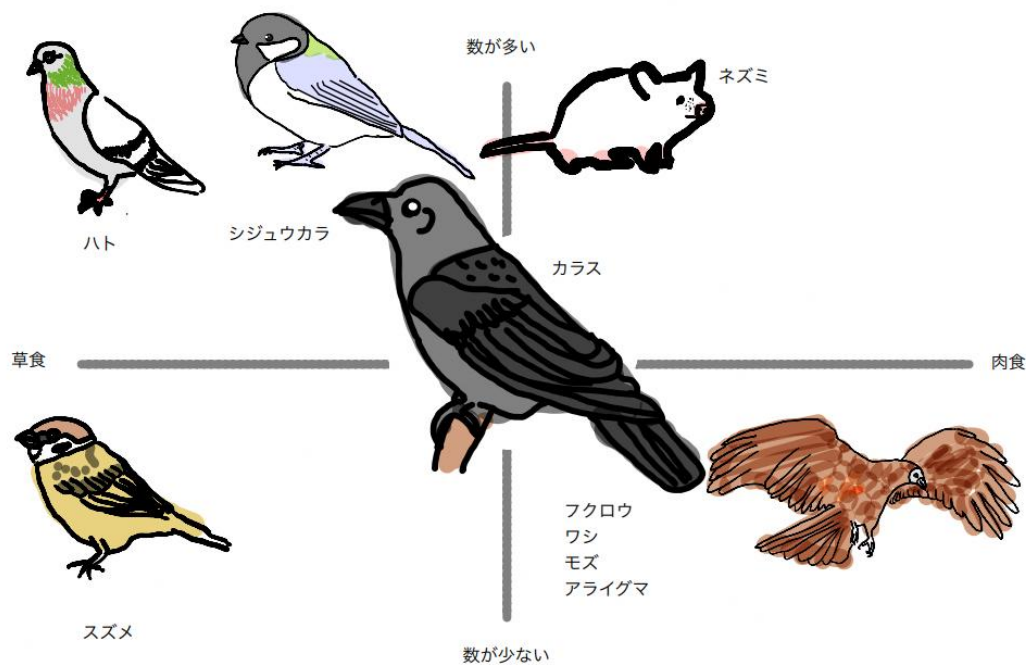
【ハシブトガラス】
・クチバシが太い
・頭が少し膨らんでいる。
・都心部にいる。
・地面であまり活動しない
・ぴょんぴょん跳ねて歩く
・鳴き声は「カーカー」

【ハシボソガラス】
・地面で活動することが多い
・鳴き声は「ガーガー」
・都心部にはあまりいない。
・頭が平たい
・くちばしが細い
・人のような歩き方

●カラスの一年と対策

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月から2月	対策
繁殖期							ゴミ対策 餌付禁止！
巣作り							
産卵							
ヒナが育つ							
			ヒナ巣立ち準備・ついに巣立ち ヒナが見れるかも！				すみかで生活 樹木のせんてい

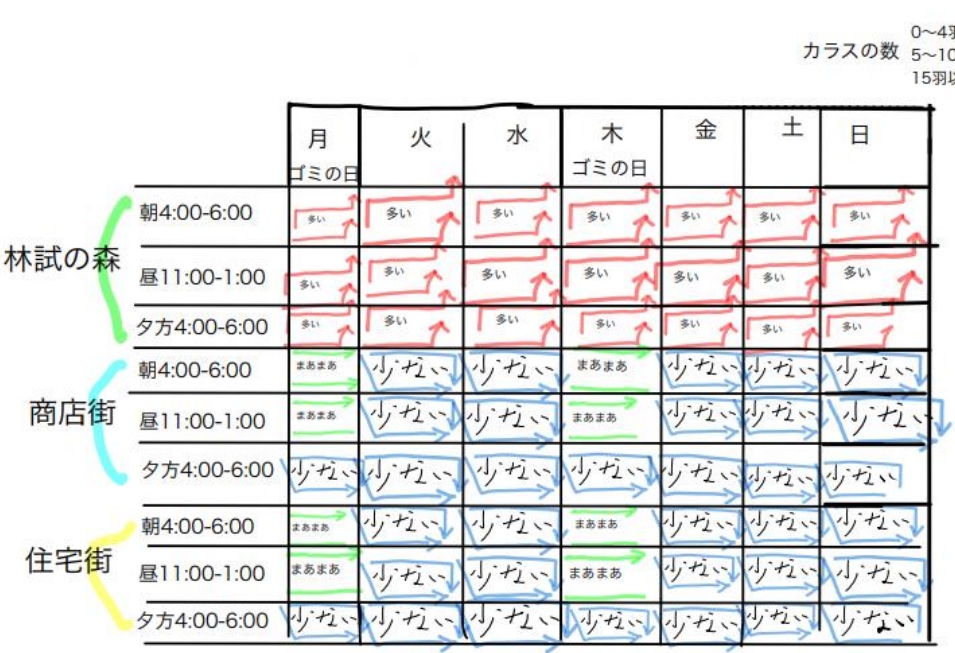
●都会に住む野生動物たちのバランス



6. 観察方法

僕の家の周辺にある住宅地、商店街、林試の森の三ヶ所を調査の対象にした。
観察は8月の1ヶ月の間行い、朝、昼、夕方に自転車に乗り、カラスを目視で観察。母のスマホでカラスを撮影した。

●カラスはいつどこにいるか



●カラスはどこで何をしているか

【昼12時】
林試の森の木陰です
ずむカラスたち。セ
ミや木のみを食べ、
カラス同士でたまに
おしゃべりをしてい
る。
リラックスして過ご
している。

【朝6時】
住宅街で生ごみを見つけたカラスが
ごみの上で「カアカアカ」と鳴い
た途端、色々なところからカラスが
集まってきて、集団でゴミを漁って
いた。ゴミの近くにいたネズミやゴ
キブリも追いかけていた。
気が立っているのが、近づくとか
ア！カア！といかされる。

カラスの寝ぐら
林試の森
林試の森公園
住宅街
商店街
住宅街
小山
武蔵小山
平塚
東急目黒線
不動前
梅ヶ谷
中原街道
立会道路
往原

【朝4時】
ねぐらのある林試の森から
次々と飛び出してくるカ
ラス。
まずは夜中のうちにuscita
れた商店街のゴミを漁り、次
に住宅街にある生ごみを探
している。

【夕方4時】
商店街で拾った割り箸で
遊ぶカラス。
この時間帯は餌が少ない
のでカラスの数も少な
い。
林試の森に戻り、木の上
でカラス同士おしゃべり

7. 観察結果

- 林試の森には1日を通して多くのカラスがいた。
- ゴミの日は商店街や住宅街では、朝早くから昼頃まで餌を探すカラスの姿が見られた。
- 林試の森にいたカラスの数を考えると、一部のカラスが餌を探しに来ている。
- ゴミ探しをしているカラス以外はずっと林試の森にいたことが分かった。

8. 考察

①カラスの行動範囲

- 林試の森からすぐに飛んでいける距離を移動しており、遠くまで餌を取りに行っていない。

②カラスの鳴き声

- カーカーカー：仲間同士で今どこにいるかを確認している。
- 餌をのに乗って短くカア、カア、カア；餌を見つけたよ、と仲間を呼び寄せている。
- 僕を見ながら強くカア！カア！：いかくして、脅している。

③カラスのルーティン

- カラスは、一日中ほとんどの時間を食べ物を探すことに使っている。
- 公園にいるカラスは、昆虫や木の実などを食べている。
- ゴミを漁っているカラスの数は、林試の森にいるカラスの数より少なく、多くのカラスはずっと森にいる。
- ゴミ探しは5羽程度のカラスがチームになって行っている。
- ネットやゴミ箱にきちんと入っていない生ごみが出される場所を覚えており、ゴミの日にパトロールしている。
- 住宅街や商店街にいるカラスは、ごみ収集車が来る前にゴミを見つけ、漁っている。
- 空高い位置からネットがかかっておらず、生ごみが入ったゴミ袋を見つける。
- 生ごみを見つけたら、仲間を呼んで集団でゴミ袋を破り、中身を引っ張り出す。
- 公園で昆虫や木の実を食べているときと違い、ゴミを食べている時は狩りする手間がなく楽そうに見える。
- 生ごみを食べているときはガツガツと勢いがよく、興奮しているように見える。
- 木の実や昆虫よりも生ごみをおいしそうに食べている。

9. 自由研究を終えた感想

カラスのほとんどは、公園で昆虫や木の実などを食べていることが多く、ゴミを漁るのは少数だということが分かった。
また、住宅街や商店街では、生ごみ以外にもゴキブリやネズミを食べていた。
カラスに狙われた生ごみは、人間がルールを守らずネットをしていなかったり、ゴミ収集車が来るよりもかなり早く出されたゴミが狙われることが分かった。

カラスは生ゴミだけではなく、ネズミやゴキブリも食べているので、もし駆除されて完全にいなくなってしまうと、商店街や住宅街にネズミやゴキブリが増えてしまうかもしれない。その一方で、カラスが増え過ぎてしまうと、今度は餌が足りなくなり、畑が荒らされたり、きちんとルールを守って出したゴミまで荒らされしまうかもしれない。

カラスはとても大切な役割をもっている生物だ。人間と共存していくために、増えすぎてもいけなくて減りすぎてもいけない、そのバランスがとても難しいと思った。

10. 参考文献

日本野鳥の会. (2001~2004). 【特集】カラス再発見. 日本野鳥の会
<https://mobile.wbsj.org/nature/kyozon/karasu/yacho99/621.html>
松原始. (2020). 図解 眠れなくなるほど面白いカラスの話. 日本文芸社.